

# 令和6年産(2024年産)農畜産物に係る 十勝管内農協取扱高について〔概算〕

〔令和6年(2024年)12月24日  
十勝地区農業協同組合長会  
十勝農業協同組合連合会  
北海道十勝総合振興局〕

## 1 考え方

本集計は、令和6年産農畜産物に係る十勝管内23農業協同組合の取扱見込額について、農協ごとに試算した概算値の集計であり、商系取扱高（農協以外の一般商社等取扱分）は含んでいないことから、十勝管内農業産出額とは異なる。

取扱高には、直接支払交付金、生乳生産者補給金を含むが、産地交付金、農業共済金支払額は含まない。

## 2 令和6年の概要

**農協取扱高は、耕種部門、畜産部門双方が増収したことにより、  
3,770億円（前年比106%）**

### ◇耕種部門取扱高◇1,476億円（対前年比105%〔構成比39.1%〕）

本年は、総じて平年より作物の生育が早く進んだ。

- 小麦は、登熟期間における高温少雨の影響により豊作だった前年産の収量を下回ったことなどから、前年比13%減。
- 豆類は、大豆の作付面積の増加や小豆の反収の増加により、収量が前年産を上回ったことなどから、前年比17%増。
- ばれいしょは、豊作だった前年産の収量を下回ったものの、価格が堅調に推移したことなどから、前年比2%増。
- てんさいは、前年産より作付面積が減少したものの、高温による病害の発生が抑えられ根中糖分が上昇したことなどから、前年比36%増。
- 野菜は、一部で作付面積の減少などにより前年産の収量を下回った品目があったものの、価格が堅調に推移したことなどから、前年比5%増。

### ◇畜産部門取扱高◇2,294億円（対前年比106%〔構成比60.9%〕）

- 酪農は、猛暑の影響も比較的少なく、生乳生産量が前年を上回るとともに、乳価が上昇したことなどから、前年比7%増。
- 肉用牛は、枝肉価格や素牛取引価格が下落したものの、取引頭数が増加したことなどから、前年比4%増。

## 3 取扱高集計結果

（単位：億円、%）

区分	令和6年（概算値）		令和5年（概算値）		対前年比		
	取扱高	構成比	取扱高	構成比	増減額	前年比	
耕種	麦類	356	9.4	411	11.5	△55	87
	雑穀・豆類	251	6.7	215	6.0	36	117
	ばれいしょ	326	8.6	321	9.0	5	102
	てんさい	282	7.5	208	5.8	74	136
	野菜	257	6.8	244	6.8	13	105
	その他	4	0.1	4	0.1	0	100
	小計	1,476	39.1	1,403	39.2	73	105
畜産	酪農	1,563	41.5	1,466	41.1	97	107
	生乳	1,435	38.1	1,325	37.1	110	108
	肉用牛	674	17.9	647	18.1	27	104
	豚・鶏	49	1.3	50	1.4	△1	98
	その他	8	0.2	7	0.2	1	114
	小計	2,294	60.9	2,170	60.8	124	106
総合計	3,770	100.0	3,573	100.0	197	106	

※ 取扱高は税抜き。